



1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

JAPAN

Tajima



關流算法草術卷之一

六章上

人取三人有毛人一日六合先の換り下て
思枝持木沙拉
至五合

休云人取三人をもへ賣らじ毛人の換持
木沙合とも一思枝持木沙拉至五合といふ
人取三日捨人有一日毛人六合アーテ想
はる年はだき

三五 売不草大木文合

四 累之木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗
文合之積^一斗^一也累之木有拾^一斗

三六 小木文合

七 木累之木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗
文合之積^一斗^一也累之木有拾^一斗

八 累之木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗
文合之積^一斗^一也累之木有拾^一斗

三七 二口之拾九石半斗大木

五

九 木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗^一也
累之木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗^一也

三八 五俵

十 木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗^一也
累之木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗^一也

十一 木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗^一也
累之木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗^一也

十二 三口之拾九石半斗大木

七

十四 二口之拾九石半斗大木

十五 木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗^一也
累之木有拾^一斗二升但累之木拾^一斗^一也

七

馬

至正之口役

伊云官麥毛石年分金之西山之役去
斗土牛口役有伊云之役去之
麥毛石口拾之牛口口牛口役
地價收於稅

至正之口役口口口口口口口口口口

九
五牛口役人之東之役有伊云役有伊

至正之口口口口口口口口口口

伊云役收之口口口口口口口口口口
十
口口口口口口口口口口口口口口口口
口口口口口口口口口口口口口口口口

金收於稅

至正之口口口口口口口口口口

土
伊云役收之口口口口口口口口口口

金收於稅

法之口口口口口口口口口口

^主 余ニ拾ひし者を人交換せん故は
往く為

^主 壬午 七十人

^主 並に後と端末止中五年百個半張と年セ共之を
以て思石取川を過る

壬午 壬午に牛セ共之合

御石張取川と並んで東北の邊法川牛糞合
を並べて走る牛糞合と曰ふ端末止
斗糞合とかへ思石取川を牛糞合と云ふ

^主 又御石張取川の後のもつ端末止牛糞合を並べ
て走る御石取川と實ひり張の川ノ上ぬる
思石取川と牛糞合と云ふ

^主 並共に牛糞合と並んで思石取川を過る

^主 二人の御石取川合の後へかへア久
吉の御石取川を過る

壬午 七十六名

御乞人取を乞ひ合とましと一日の御用事

米合をひり取をあへて也御用事

在五合とま

吉

もく一日の御用事も合へてへん人のは
片手に持る

七
至多 手斗

貯てたる穀物をあへて、米合がふえ
なるを知らむる但稻米水揚
五合をひり取

至多 手斗升

御乞人取を乞ひ合とましと一日の御用事
米合をひり取をあへて也御用事

在五合とま

六

御乞人取を乞ひ合とましと一日の御用事
米合をひり取をあへて也御用事

但稻米水揚
五合をひり取

至多 手一拾升を手斗升

九

御乞人取を乞ひ合とましと一日の御用事
米合をひり取をあへて也御用事

在五合とま

至多 手

佛云後取七百四十頭法器牛頭子計
不以牛頭子爲寶也又佛法中牛頭子法器
以爲大財除之後

大
四斗六升牛頭子法器牛頭子五升
一斗六升

大
三斗六升四斗六升

大
三斗六升牛頭子法器牛頭子五升

佛云有牛頭子法器牛頭子五升

佛云有牛頭子法器牛頭子五升

牛頭子法器牛頭子五升

大

大
三斗六升牛頭子法器牛頭子五升

大

大
人頭子拾五頭子毛馬頭子頭子頭子
毛馬頭子毛馬頭子毛馬頭子毛馬頭子

毛馬頭子毛馬頭子毛馬頭子毛馬頭子

佛云後取七百四十頭法器牛頭子計

法の如きは其の爲めに傳承する
儀法也生れ立つて馬を走らせる事
能と云ふ

嘉 既に拾へ儀方毛を馬口に拾はず
但と乗せ牛糞又と馬糞をもおひだる
事無く之不思議耳

正五 波口拾はば波相馬拾はば
水口拾はば水口拾はば

波口拾はば波相馬拾はば
水口拾はば水口拾はば

喜 捨日拾日拾日拾日拾日拾日
波口拾日拾日拾日拾日拾日拾日

至日拾日

支

波口拾日拾日拾日拾日拾日拾日
至日拾日拾日拾日拾日拾日拾日
波口拾日拾日拾日拾日拾日拾日
至日拾日拾日拾日拾日拾日拾日
滿日拾日拾日拾日拾日拾日拾日
トモ吉日拾日拾日拾日拾日拾日

解の波に拾ひ合ひてねじり拾ひを
以て落し拾ひよとて今をかの波
をもの波拾ひがいに拾ひと別にかの波
はその波拾ひよとて今をかの波
をもの波拾ひをもとめをもとめの波
又或ひあちか拾ひよとて今をかの波
ももを今をももの波

今をかの波拾ひよとて今をかの波拾ひをもとめの波

の波

又もとの波拾ひよとて今をかの波拾ひをもとめの波

の波

又もとの波拾ひよとて今をかの波拾ひをもとめの波
をもとめの波拾ひをもとめの波拾ひをもとめの波
をもとめの波拾ひをもとめの波拾ひをもとめの波
をもとめの波拾ひをもとめの波拾ひをもとめの波
をもとめの波拾ひをもとめの波拾ひをもとめの波
をもとめの波拾ひをもとめの波拾ひをもとめの波

六
三
四
五

至る 右拾五枚と波六枚

支 波古拾九枚と波二枚

至る 右拾九枚と波二枚

御元右浪四拾三枚と波二枚

御元右浪四拾三枚と波二枚

御元右浪四拾三枚と波二枚

支 波古拾九枚と波二枚

御元右浪四拾三枚と波二枚

御元右浪四拾三枚と波二枚

今何枚

支

浪古拾九枚と波二枚

今何枚

至る 今何枚と波二枚をも

御元右浪四拾三枚と波二枚

御元右浪四拾三枚と波二枚

今何枚と波二枚をも

御元右浪四拾三枚と波二枚

あのも今こまかく一せんとましに波にかづく
ともと等。

辛二

限四百二十。左主。不せき。左九束。右四束。右
一。合行行。

辛三

限四百三十。左主。不せき。左九束。右四束。右
一。合行行。

合行行。

主三。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。

御会右百四拾或半。右波主。毛太系。左毛太系。

辛四

賣主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。

辛五

限三。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。
左主。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。

合行行。

主六。右主。不せき。左主。限三。右主。不せき。左主。

辛立

まつせき三毛口東北の銀

銀二拾五石有四下へりてばとの但を取て

三毛七石

伊云有銀二拾五石と金一百石と金一百石のモ

さ室三石と金一百石を除くと金一百石を除く

銀七石に拾五石有四下へりてばとの但を取て

三毛石式拾五石

銀二拾五石有四下へりてばとの但を取て

丁銀を取て拾五石を取て

三毛五石

辛七

銀二拾五石有四下へりてばとの但を取て

三毛五石

辛八

伊云有銀二拾五石と金一百石と金一百石の

金一百石と金一百石を除くと金一百石を除く

銀二拾五石に石拾五石有四下へりてばとの但を取て

三毛五石

石式拾五石

辛九

伊云有銀二拾五石と金一百石と金一百石の

金一百石と金一百石を除くと金一百石を除く

三毛五石

石拾五石

伊云拾五石を金一百石とあて合て

石拾五石をい

解曰今之通也小是嘗文と書ひて傳
中の通はく古ノ承事の貴文と云ふ今之支
小是と云ふ事は古ノ承事とへて云ふ承
と別に之初事を高ヒタ一回今之支
と承事書文と名づけ小是と云
知事又今之支事と云ふ承事書文と今
ちく今之支事と云ふ事と云ふ事と年号
音承と謂ふ事と云ふ事

今之支事承文

合之支事承事百五拾文

是今之支事書文と云ふ事

合之支事承事百五拾文

是今之支事書文と云ふ事

合之支事承事百五拾文

是今之支事書文と云ふ事

合之支事承事百五拾文

是今之支事書文と云ふ事

合之支事承事百五拾文

是今之支事書文と云ふ事

金一ノ首作一仕を追ふ。小拾費又は
拾取あらば残り小物而も拾ひを排ぬる
も今其事かまに拾取をもとめ

解云承走費うを金を取てまつて是也。ト
又走もとくの事而をあきらめ難む
トハ故に承走費うと口に説キ一ノ小物而も
拾文を而今走るの承走をも可事に
承走費を拾取す事より事に亦能

四二

承走費六百石を拾文有合て一ノ小物

至るを拾六枚を考

四三

承走費六百石有合て一ノ小物

至るを拾六枚を考

例云承走費六百石を追ふ。費ふあて金一
仕を追ふ。残り小物而も拾ひを排ぬる
事。又のト「金」事がても今其事をもとめ

解曰承走費うを小物而も拾ひをもとめ方の
事。解之候て承走費六百石を金取るの事

かのとひの五日又と拂ふと金をもとすと云ふ

とほり

墨
永二日詰給ひ金をもとすと金をもとすと云ふ

とほり
二日詰給ひ金をもとすと云ふ

牛カ
永二日費せし日を給ひ有金て一と金をもとすと云ふ

とほり
二日費せし日を給ひ有金て一と金をもとすと云ふ

御金永二日費せし日をもとすと金をもとすと云ふ

一と金をもとすと金をもとすと云ふ

金文と角くぬのと金をもとすと金をもとすと云ふ

とほり

解口又未のとくとく金をもとすと金をもとすと
金をもとすと金をもとすと金をもとすと金をもとすと

永二日費せし日を拂ひ金をもとすと金をもとすと

永二日費せし日を拂ひ金をもとすと金をもとすと

墨
永二日詰給ひ金をもとすと金をもとすと

とほり
二日詰給ひ金をもとすと金をもとすと

御金永二日詰給ひ金をもとすと金をもとすと

拂と一往復の令狀もと毛利承白盤丈
と角と令狀承とて方のトガルをと令狀
と詔承

解曰承白と令狀は令をさむの取引をば
承白詔拾之文と令狀承の承白とと知れ
承白詔拾之文と角と令狀承とすと又達り
承白詔拾之文と令にとく行ひる

至手三事承

令狀拾之文と角と承白

但モタニテ
セシモ

金五两

伊之令狀拾之文と承白と承白と承白と
四百七十石をばと承白と承白と承白と承白
解白詔拾之文と承白と承白と承白と承白
商五と承白と承白と承白と承白と承白
令五百九拾九石有余にと承白と承白と承白

至手 石詔拾之文

令四拾九石九百石有余にと承白と承白

至手 石詔拾之文

辛

例去口拾百石セイシキコハシヒヤクと申す。此の主事
某日セシカモト申す。此の主事と申す。小拾費
此面シマツを合文セイシキと申す。費は止を申す。一役
と庭テイ又申す。小拾面シマツハシを申す。申す。下
今是もかくまに拾及シマツシと申す。

解曰夫を法に深シナニ商拾。或シテ申す。故て
夫を法に拾及シマツシと見。承拾費。小拾費
之を法の申す。今拾是も申す。

八

金重シマツシ十九拾石シマツシヒヤク九石シマツシ有アリ。一役

八

金重シマツシ一百九拾石シマツシヒヤク九石シマツシ有アリ

九

金四拾石シマツシヒヤク四石シマツシ有アリ

五

金三拾石シマツシヒヤク三石シマツシ有アリ

例去口拾百石セイシキコハシヒヤクと申す。此の主事

某日セシカモト申す。此の主事と申す。小拾費
此面シマツを合文セイシキと申す。費は止を申す。一役
と庭テイ又申す。小拾面シマツハシを申す。申す。下
今是もかくまに拾及シマツシと申す。

之を法の申す。今拾是も申す。

解の事には小室と商ひもとひ故にとあら
とほすと見ゆふと費ひてゆくと定法のや

令下へと令へぬども

令或實を而士拾すとちよきをぬづくに付ける
但主事あり

三五

三五 三四武拾りぬする

令拾すとちよきをぬづくに付ける但主事あり

三六 こぬこと

例文令拾すとちよきと見ゆふと付けるもの

ちよきと見ゆふと見ゆふと付けるもの
士拾すと見ゆふと見ゆふと付けるもの
もとある

三五

解の事には小室と商ひもとひ故にとあら
とほすと見ゆふと費ひてゆくと定法のや
とほすと見ゆふと費ひてゆくと定法のや
令下へと令へぬども

士拾すと見ゆふと費ひてゆくと定法のや

三五

令拾すと見ゆふと費ひてゆくと定法のや

士拾すと見ゆふと費ひてゆくと定法のや

卷之四

七

御令之給に有りがまをもとて御
の御もとより御給ひて御給ひて御
おとせ給ひて御給ひて御給ひて御
仕進を又のとて金代又石付を又御
ておのと御あかへせに令せ御給ひて
解口とほかと商ひをうかとおもとひく
走りと御ひと御ひと御ひと御ひと御
と御ひと御ひと御ひと御ひと御

辛

令口拾口走り御もとて御給ひて御

辛八 拾口走

令口拾口走り御もとて御給ひて御

辛九 九口走

御令口拾口走り御もとて御給ひて御

走り御もとて御給ひて御給ひて御

費六石付を又御給ひて御給ひて御

走り又石付を又御給ひて御給ひて御

走り又石付を又御給ひて御給ひて御

志小力也ニシテ或事と云

解文實を以て陣商立之が事も又云及
主事の如きは其事をもとより而實に
之の事法の如く令す。今立處に於て

幸九全六百四拾二年十二月廿日有日故下之付給と有旨書
金六百四拾二年十二月廿日有日故下之付給と有旨書

至云一百四拾九日有日故

調洋五百四十日有日故入有日故
至云一百四拾九日有日故

付之調洋五百四十日有日故

法の九分六角を以て此の事の而の仕事
降く商主無事此の如くは給文を以て即と書
取て候ふ

辛一

調洋此拾九日有日故文有通函あらへて何相商

至云此拾九日有日故文

通用洋五百四十日有日故文有通函あらへて何相商

至云此拾九日有日故文

付之至云此拾九日有日故文有通函あらへて何相商

至云此拾九日有日故文有通函あらへて何相商

辛巳

調達支費小石支拂之と申る
通用降五石或拾貲貲之拾貲文有調拂之
何也

辛酉

至云 一石。費八石。之文
調拂拾貲之石或拾貲文有調拂之
一石之未拂之也

至云 二本

拂云支取の口費文をも是法九石と申す
て五石又以下の取向く。調拂之費八石拾貲之

辛丑

法九石有調拂拾貲之口拾貲之と申る
拂云支拂之二本と申す

調拂而拾貲貲之石又有通用降五石口費文を
以て一石之未拂之也

辛未

拂云支有通用降五石口費文之通
用の無ナリハ也

至云 支拾貲貲文

拂云支拂之调拂貲貲之石之未拂

力と家と並拾曾ととては之法九
かとをとて法九とては之法九

拾也事とせら

洋而此拾也事有但も來て酒洋貰ひに
死之通用洋

亨

緒ニ拾或アリカ有カアリトモシセム

正取の様

至

二而此拾也事アリ

亨

御之緒ニ拾或アリトモシセム
又人有ハ此之緒ニシテアリトモシセム

故何能ス

七

至ニ二拾定

緒拾人有ナ有ナ有ナ有ナ有ナ有ナ有ナ有ナ

事ニセト獨動人有ナ

御之緒拾人有ナ有ナ有ナ有ナ有ナ有ナ有ナ有ナ

又人有ハ此之緒ニシテアリトモシセム

辛一

滿まつうの或あるいはすと

絃げん百ひゃく拾しせん人ひと才さい有あ十じゅう枚まい但ただしは

辛二

絃げん拾しせんとと改かめ九こ手てす

絃げんセ百ひゃく曲くく人ひと但ただしは

三さん三さん一いっセんす

側そば三さん三さん大だい法ほう人ひと但ただしは

辛三

曲くく人ひと但ただしは

絃げん九こ拾しせん但ただしは

辛四

曲くく人ひと但ただしは

辛五

三さん三さん大だい法ほう人ひと但ただしは

辛六

絃げん百ひゃく拾しせん人ひと才さい有あ十じゅう枚まい但ただしは

辛七

三さん三さん一いっセんす

辛八

側そば三さん三さん大だい法ほう人ひと但ただしは

辛九

絃げん百ひゃく拾しせん人ひと才さい有あ十じゅう枚まい但ただしは

曲くく人ひと但ただしは

至百九 頸人毛丈四人曲

曲人毛丈四人

御云吳肢人毛丈四人曲人毛丈四人

毛丈四人曲人毛丈四人

又吳肢人毛丈四人曲人毛丈四人

毛丈四人曲人毛丈四人

毛丈四人曲人毛丈四人

毛丈四人曲人毛丈四人

何往也

辛六

至百九 頸人毛丈四人曲人毛丈四人

毛丈四人曲人毛丈四人

長安毛丈四人

至百九 檀丈四人

御云檀丈四人毛丈四人

毛丈四人

毛丈四人

毛丈四人

毛丈四人

毛丈四人

辛七

至百九 頸人毛丈四人曲人毛丈四人

毛丈四人曲人毛丈四人

布毛丈四人

毛丈四人

毛丈四人

毛丈四人

辛八

至百九 頸人毛丈四人曲人毛丈四人

毛丈四人曲人毛丈四人

毛丈四人

毛丈四人

至多 五百貫八百文 金銀兩色鑄銀者

倅云大貫五百貫之半者之半四百文
一千一貫也代洋五百貫八百文者

至 布一百拾四反者之反代洋四百文之也代洋
何也之句

至多 五百貫二千文 金銀兩色鑄銀者

本朝拾取者有數十之何也之但至多是
至多 二反

倅云拾取者有數十之何也之法則與法則

八十三

本朝計百拾二反者有數十之何也之但至多

至多 二反

至多

沉香三百六十拾三反者有數十之何也之但至多

至多 二反

倅云三百六十拾三反者有數十之何也之法則與法則

至多

沉香三万九千七百六十拾四反者有數十之何也之但至多

至多 二反

沉香三万九千七百六十拾四反者有數十之何也之拾之反

牛二

沈喬北竹上支有三竹の代役四百を拾ひ也代役
何社も

至多 三支費一百を拾ひ也

伊云武竹上支と金けん支を竹法拾ひ支に除く
此竹はと清き三竹の代役四百を拾ひ也

也代役三支一百を拾ひもどり

沈喬九竹拾武支有三竹の代役四百を拾ひ也
代役何社も

至多 四支三支一百を拾ひもどり

八六

沈喬北竹上支有三支之代役四百を拾ひ也代役
何社も

至多 三支費一百三拾四

伊云三竹上支五支と竹法拾ひ支と共
して此拾三支と清き三竹の代役四百を拾

也代役三支一百三拾四

沈喬北竹上支有三支之代役四百を拾ひ也代役
也代役何社も

至多 武拾費一百九拾四

牛九

辛

耳草四百石拾有七石。上に落主。計四百石

落石九石落石也。

至多四人三十石を取

例云口石四石と計四石を竹法拾五石下限
口石武石を計四石を竹法拾五石下限
走人。武石四石と計四石を竹法拾四石下限
走人。武石四石と計四石を竹法拾四石下限

辛

耳草九石七石拾五石拾石有三石。亦に落主。

武石九石七石拾五石拾石有三石。亦に落主。

例云口石四石下限

辛

至多走人。

自檀三石拾石有三石。代調済。此石拾一
文之。代清候也。

至多。調済拾五石。口文

例云三石拾石有三石。代調済。此石拾一
文之。代清候也。

石拾石有三石。代清候也。

辛

自檀口石七石拾五石拾石有三石。代調済

口石拾石有三石。代調済

口石拾石有三石。代調済。此石拾五石。口文

此正合人之常情也

而固執一隅者

則又失之過矣

故曰

